

UMC-Japanese Ministry
11 Highgate Terrace
Bergenfield, NJ 07621 USA

新サーキットライダー 2009年 3月号



ユダの荒れ野

United Methodist Church - Japanese American Ministry

合同メソジスト教会日本語ミニストリー

c/o The Church of The Good Shepherd at New Bridge Rd & South Prospect Ave, Bergenfield, NJ 07656

Pastor Jun Yoshimatsu 牧師：吉松 純

Church: (201) 385-4100, Parsonage: (201) 338-2744 Homepage: www.umc-japan.org

受難節：ユダの荒れ野に思う

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため霊に導かれて荒れ野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると誘惑する者がきて、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。』と書いてある。」

次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使をたちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない。』とも書いてある。」と言われた。

更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世の全ての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんなあたえよう」と言った。すると、イエスは言われた「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。』と書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。すると天使たちがイエスに仕えた。

マタイ 4：1-11.

2月18日から27日までテレビ伝道ハーベスト・タイム主催の聖地旅行に行つて参りました。一クリスチャンとしてイスラエルは憧れの地であり、かねがね行ってみたいと願っていました。が、これまでイスラエルとアラブ諸国との紛争、国内でのパレスチナ人（アラブ系イスラム教徒）との軋轢などがその思いを押し留めてきました。今回も行く直前に反イスラエル強行政権ハマスのテロ、それに対するイスラエルの報復などで政情が悪化し、聖地旅行はどうなるのだろうか？と思いました。実際、幾人もの方から「大丈夫ですか？」とか「何でこの時期に行くのですか？」などと言われました。

しかし全てのことには時があります。（コヘレト {伝道の手記} 3：1）今回の聖地旅行は偶然ではなく、昨夏の終わりにハーベスト・タイムの主幹である中川健一牧師と出逢った時から全てが用意されていました。昨夏、東部日本語教会、伝道所が集まって合同ファミリーキャンプが持たれました。そのゲスト・スピーカーが中川先生でした。牧師会で中川先生の出迎え、宿泊担当に私が決まり、先生を牧師館にお迎えしました。ファミリーキャンプ前後に中川先生とゆっくり話す機会が与えられ、妻も私も、先生のイスラエルへの熱い思いに感銘を受け「これは行かなければ！」という思いになりました。もし先生がうちにお泊りにならなければ、恐らくこのよ

うな思いにはならなかったでしょう。中川先生は帰国直前に息子さんと牧師の中川洋先生（カリフォルニア在住）に電話しアメリカからの聖地旅行参加計画を打診され、この件が「あれよ、あれよ」と言う間に整えられて行きました。

人と人の出会い、物事の成り行きは全て偶然ではなく、このように神によって与えられ、備えられていくのだな、と改めて感じました。それを受けるかどうかはその人次第。日本の「御縁があれば」の縁は神が与えてくださるもの。それを受けるも損ねるも私達に掛かっています。だから「今」「この時期」だったのです。

さて聖地旅行では前半はユダの荒野、死海、クムラン（イエス様の時代に存在したユダヤ教密教集団の地）、ナザレやカペルナウム、カイザリヤ、ゴラン高原などガリラヤ湖周辺を回り、後半はエルサレムとイエス様の足跡を辿るように組まれていました。2日目にユダの荒れ野に登ったのですが（正に行くというより登るといふ感じです。）その時に、イエス様の40日40夜の荒野での修行、試練を肌で感じる事ができました。

そこは英語の訳 Desert（砂漠）から想像されるような砂丘ではなく、岩と石でできた山々、丘、谷が連なる不毛の地でした。木々や草花は全く無く、岩や石の間から硬い土が露出したような荒涼とした風景でした。ニューヨーク近辺に緑美しいキャッツキル自然公園があります。東京近辺だったら奥多摩、或いは秩父あたりを想像して下さい。その山々や丘陵地帯から全ての植物を根絶やしにし、岩や石で斜面を埋め尽くしてください。不毛の地、正にそれがユダの荒れ野です。2月でも日中晴れば半袖で良いほど暑くなり、夜は凍えるほど冷えます。夏は耐えられない酷暑になります。更にイエス様の時代、イスラエルは今よりも人口が少なく開発されていなかったのがアフリカと地続きであったユダヤの地にはライオンや猛獣が時折出ました。勿論毒蛇も。そのような中にイエス様は身を投じたのです。ユダの荒れ野には水もなく、昼も夜もひたすら彷徨ったのではと想像できます。或いは暑さ寒さを避ける為に、洞穴や窪地を見つけてそこで祈り、瞑想していたかもしれません。

こう書くと何だか途方も無く辺りでも人里はなれた場所を皆さんは想像されるのではないかと思います。しかし実際にはユダの荒れ野はエルサレムからほんの10数キロしか離れていません。総面積がニュージャージー州と同じくらいのイスラエルは車を平均速度で走らせれば東西は2時間ちょっとで、南北も4時間で駆け抜けてしまいます。荒れ野は南北には数

十キロ伸びていますが、東西は精々20キロといったところです。ですから最も町から離れた所にも、その気になれば徒歩で荒れ野からエルサレムやエリコには半日から1日、ガリラヤ地方だったら数日あれば行く事ができました。

つまりイエス様はその気になれば荒れ野から何時でも抜け出す事ができたのです。しかし彼は敢えて40日荒れ野の中に留まりました。一体何故？ それは自然環境、場所である荒れ野は道さえ知っていれば抜け出すことはできますが、人生の荒れ野は「苦しいから」「辛いから」と言って逃げ出すことは容易にはできないからです。私達人間はともすると安易な道を選びます。何か辛いこと、悲しいこと、苦しいことなどが起こると、そこから逃げ出そうとしたり、容易に解決できる方法を模索します。しかしそのような解決法は一時凌ぎであって本質的な問題の解決にはなりません。

時折、仕事や人生に躓いて競輪、競馬などギャンブルにのめり込んだり、酒に溺れたりする人がいます。また失恋をした女性、男性が次から次に淋しさを紛らわす為パートナーを変えて一時の快楽に溺れている姿を見たことも幾度もあります。お金に困ってサラ金に手を出し、借金地獄に落ちた方も沢山います。比較的最近のことですが芸能人が覚醒剤に手を出し逮捕されたニュースが流れていました。その人曰く「仕事が上手く行かず、不安になって、眠れなくなり、つい覚醒剤に手を出して、一時の快楽、安易な逃避に走ってしまった。」みたいなことを言っていました。

私達は悲しみや苦しみに遭うと、そこから安易に抜け出す事ばかり考えます。悪魔が来て「石ころをパンに変えて見せよ。」と誘惑したのは、イエス様が40日の断食修行の後、最も空腹になった時、肉体的に一番弱い時でした。仮にイエス様がその誘惑に負けて石をパンに変えたとしても、彼には自己正当化できるだけの理由がありました。「40日の飲まず食わずで肉体的に限界だった。」「食べなかったら死んでしまう。」など。しかし、イエス様は敢えて「人はパンのみで生きるのではない。神の言葉で生きる。」と悪魔に言い誘惑を退けました。

次に悪魔は人間が最も弱さを露呈する、自己顕示欲をつついてきました。神の子なら何があっても、高い所から飛び降りても天使が守ってくれるから、やってみろ、と。人間は自分の力、美貌、才能、学歴、職歴、経歴、社会的地位などなど、その人が持っている物を誇示したい性（さが）があります。人からちやほやされされ「自分は人と違うんだ」と傲

慢になる。そして人が見ている前で認められなかったり、何か些細なことを言われただけで、或いはちょっと批判されただけでプライドが傷つく。そこで人前でついつい余計なことを言ってしまったり、やってしまう。今回の旅行でイエス様が悪魔から誘惑を受け、高い所に連れて行かれたとされる場所に行きました。そこに立った時「飛び降りたら気持ち良いよ。」「神様が守ってくれるよ。」みたいな誘惑の声が聞こえてくるようで、何だかムズムズしてしまいました。悪魔がそそのかした時、イエス様も神の子としてその力を顕示する欲望に駆られたかもしれせん。しかしイエス様は、そのような自己顕示欲を増徴させるような、またプライドを攻撃するような誘惑には屈せず「(父なる)神、主(の力)を試してはならない。」と応答しました。

悪魔は懲りることなく次に高い山に連れて行き世界の繁栄を見せて「私に仕えるなら、これをみなあげよう」と、誰もが持っている欲を叶える代わりに神から離れ自分を信じることをイエス様に求めました。しかしイエス様は聖書に基づき「ただ主である神のみを拝す」ことを宣言し悪魔を退けました。多くの人が「神なんていない」とか「宗教は弱い人間のもの」と、うそぶいて、神を信じる代わりにお金や名声を追い求めたり、脆く儂い存在である自分自身を信じています。神のみが永遠で、それ以外は全て無常なのに。

イスラエルでは新鮮な驚きの連続でしたが、その一つに「聖日を守る」ことがあり、イスラエルではそれが国民レベルで守られていました。土曜日の朝、私達がバスで移動した時、ホテルの周辺道路には全く車が走っていませんでした。時折見かけた車はラブ系住人かクリスチャンが運転していたとのこと。高速道路も快適すぎるほど空いていました。後日、同じ道を何度か走りましたが、東京やニューヨークとさほど変わらないほど混んでいました。敬虔なユダヤ人は今でも聖日を確り守り、礼拝を第一にしています。アメリカや日本のクリスチャンはもっと「安息日を守りこれを聖とせよ。」という十戒の教えを見直し「神のみを拝す」ことを大事にしなければならぬのではないのでしょうか。

常日頃から私たちは安易な道を選んだり、言い訳をすることが多いような気がします。試練にあうと逃げることばかり考えて向き合おうとしない。イエス様は敢えて向き合い、苦しみの中で神のみを見上げ寄り頼みました。私達も試練に遭った時、神のみを頼りとして生きたいものです。

吉松 純

日本語礼拝は毎週午後 3 時から礼拝堂で守っています。

- 3月 1日：礼拝、聖餐式、Jr. 教会、(変更) イスラエルについて学ぶ
8日：礼拝、Jr. 教会、春のクッキング
一夏時間スタート
15日：礼拝、Jr. 教会、レント(受難節)の意味を考える。
22日：礼拝、Jr. 教会、切手整理を通して途上国の人々のサポートをする。
29日：礼拝、Jr. 教会、切手整理。
4月 5日：礼拝、聖餐式、棕櫚の聖日、Jr. 教会
棕櫚を使った工作
12日：復活祭礼拝、Jr. 教会、イースターエッグ色付け、祝会(礼拝後、牧師

館)

報告：

- * 吉松牧師夫妻は2月18日(水)より2月27日(金)まで、ハーベスト・タイム主催の聖地イスラエル旅行に参加し素晴らしい時を持ちました。感謝。
- * 2月25日(水)から受難節が始まりました。受難節中、毎週木曜日午後7時より、英語のプログラムですがパンとスープの食事と聖書の学びがあります。今年は「キリストの十字架の七言」を学びます。
- * 3月21日(土)午後4時から、牧師館にて聖地旅行のスライドを見る集いをします。学びの後、レントにちなパンとスープのみの夕食会をします。どうぞお出かけ下さい。

御協力お願い致します。献金のあて先は UMC-JA とし、寄付のあて先を Note に記してください。

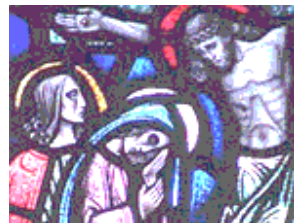
* サマーキャンプの為

* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

* 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送ります。JOCS海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

* ケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さんの為に特別献金をしています。ご協力下さい。

* パターソンの St. Philip 伝道と社会福祉団体 CUMAC/ECHO の為に、どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。



教会の住所：

The Church of the Good Shepherd, UMC.
326 New Bridge Rd. Bergenfield, NJ 07621
英語オフィス (201) 385-4100
ホームページ：<http://umc-japan.org>
牧師館：(201) 338-2744
吉松牧師 junyoshim@optonline.net
教会学校担当：吉松 泉姉
izumi.yoshimatsu@gmail.com